

(6)

氏名(生年月日)	川 島 弘 子 カワ シマカ ヒロコ
本 籍	
学 位 の 種 類	医学博士
学位授与番号	甲第122号
学位授与の日付	昭和52年4月15日
学位授与の要件	学件規則第5条第1項該当(医学研究科専攻, 博士課程修了者)
学位論文題目	頭蓋内病変による頭痛の発現部位
論文審査委員	(主査) 教授 喜多村 孝一 (副査) 教授 菊地 鎌二, 教授 内田 幸男

論 文 内 容 の 要 旨

目 的

脳神経外科領域においては頭痛は頻繁にみられる症状である。頭痛の出現様式が、頭蓋内病変の局在と何らかの相関があるとするならば、頭痛は重要な診断価値をもつ症状となり得る。著者はこのような観点から、頭蓋内限局性病変として脳腫瘍に着目し、腫瘍の局在部位と頭痛の出現様式との相関を検討した。さらに、気脳撮影時の頭蓋内空気の局在部位と頭痛の発現部位との関係について研究を行なった。

対象と方法

対象は脳腫瘍患者80名、および診断の目的で気脳撮影が行なわれた患者71名の計151名である。

脳腫瘍患者80名について、初発症状、主訴、頭痛の有無・局在・時間的経過について調べ、腫瘍の病理組織像、局在部位と頭痛発生率・出現部位との関係を検討した。

脳脊髄液圧を測定し、頭蓋内圧亢進が頭痛に与える影響を調べた。

気脳撮影は、髄液を排除することなく、5ml~10mlの空気を注入し、X線撮影を行なった。空気の局在部位を確認すると併行して、空気注入後5分以内に頭痛の局在、性質等を問診した。

結果の要約ならびに結論

I 脳腫瘍における頭痛

1. 対象とした脳腫瘍患者80例中66例(83%)に頭痛がみられ、そのうち限局性頭痛50例(76%)、全汎性頭痛16例(24%)であつた。

2. テント上腫瘍では、脳腫瘍の部位と頭痛の出現部位とが一致したものは、前頭部腫瘍20例中3例、側頭部腫瘍10例中1例の計4例のみであつた。頭頂部腫瘍では、腫瘍の部位に一致した限局性頭痛はみられなかつた。

3. テント下腫瘍では、12例中11例(92%)に頭痛が出現し、全例後頭部痛を呈した。11例中5例は前頭部痛をも伴っていた。

4. テント下腫瘍で後頭部痛に前頭部痛が加わる場合は、herniationのalarm signである可能性が大きい。

5. 視交叉部およびその近傍腫瘍(20例)では、前頭部痛が多く(8例)、ついで眼窩深部痛(4例)がみられた。

6. 頭痛を訴えた全脳腫瘍患者のうち、腫瘍の局在と頭痛出現部位とが一致したものは19%である。

7. 頭痛の局在部位は脳腫瘍の局在診断には役に立たないようである。

II 気脳撮影時の頭痛

1. 5ml~10mlの空気注入による気脳撮影では、71例中32例(45%)に頭痛が出現した。

2. くも膜下腔には空気が存在せず、第4脳室、第3脳室にのみ空気が存在する13例では、頭痛は出現しなかつた。

3. くも膜下腔には空気が存在せず、第4脳室、第3脳室および側脳室に空気が存在する25例では9例(36%)に頭痛が出現した。前頭部痛および頭頂部痛4例と側頭部痛が1例であつた。

4. 脳底部くも膜下腔にのみ空気が存在する15例では11例(73%)に頭痛がみられ、11例中10例は前頭部痛または眼窩深部痛を呈した。これは視交叉部およびその近傍腫瘍の場合の頭痛の発現部位と類似している。

5. 大槽にのみ空気が存在する6例では4例(67%)に頭痛がみられ、4例中3例が後頭部痛で、1例が前部痛であった。

6. 脳室系には空気がみられず大脳門蓋部のくも膜下腔に広汎に空気が存在する7例では5例(71%)に頭痛

がみられ、全例全汎性頭痛を呈した。

7. 第4脳室、第3脳室およびくも膜下腔にも空気が存在する5例では3例(60%)に頭痛が出現し、頭頂部痛、眼窩深部痛および耳の痛みが観察された。

8. 大脳門蓋部および脳底部のくも膜の刺激は高率に頭痛をひきおこす。脳底部くも膜の刺激は、多くの場合前頭部・眼窩深部の痛みをひきおこし、大槽の刺激は後頭部痛をひきおこす。

論文審査の要旨

本論文は、頭蓋内刺激部位と頭痛発現部位との関係を追究し、頭痛発現機序の一端を解明した学問上価値ある論文である。

主論文公表誌

頭蓋内病変による頭痛の発現部位。

東京女子医科大学雑誌 第47巻 第4号 469
～ 476頁 (1977)

副論文公表誌

- 1) 脳静脈異常に関する研究(Ⅲ)
脳神経外科 1 (5) (1973)
- 2) 頭痛に対する経皮的高位頸髄前側系破壊術 percutaneous high cervical cordotomy について。
東女医大誌 44 (7) (1974)
- 3) 脳神経外科の立場からみた小児の慢性頭痛。

小児科 16 (1) (1975)

- 4) 小児の脊髄腫瘍。
神経内科 2 (3) (1975)
- 5) 巨大内頸動脈瘤の一直達手術治験例、海綿静脈洞と内頸動脈との解剖学的関係を背景に。
脳神経外科 3 (9) (1975)
- 6) Visual aura in Migraine.
(片頭痛の視覚性前兆について)
Folia psychiatrica et Neurologica Japonica 30
(3) (1976)